

デング熱に対する注意喚起

【ポイント】

- パキスタン全土でデング熱の大流行が報告されており、死亡例も発生しています。
- 蚊に刺されないよう予防措置をとること、感染が疑われる場合には(発熱が3日以上持続など)、早期に医療機関を受診してください。

【本文】

1 デング熱の現状

パキスタン全土で2017年以来となるデング熱の大流行が報じられています。総患者数は11,700名以上と発表されており、死亡例も報告されています。今後も患者数は増え続ける恐れがあります。

2 デング熱について

(1) 感染源

デング熱はデングウイルス(1-4型までである)を持つ蚊に刺されることで感染します。感染は必ず蚊が媒介し、人から人への直接感染はありません。デング熱を媒介する蚊の活動時間は、日中(特に朝と夕方)です。

(2) 症状

症状は、急激な発熱に始まり、頭痛、関節痛、筋肉痛、倦怠感を伴います。熱の下がる頃に発疹が出現することがあります。重症化した場合、鼻出血、歯肉からの出血、生理出血の過多を見ることもあります。

(3) 治療方法

デング熱には治療薬がなく、一般にそれぞれの症状を和らげる治療が行われます。死亡率は1パーセント以下と言われてはいますが、デング出血熱という重篤な状態に至った場合、10パーセント前後が死亡すると言われてはいます。デング出血熱になるかどうかは事前に予測ができませんので、発熱が3日以上続いた場合は、医療機関への受診をお勧めします。解熱鎮痛剤はアセトアミノフェンを使用し、アスピリン系の使用は避けてください。

(4) 予防方法

デング熱には予防接種も予防薬もなく、蚊に刺されないようにすることが唯一の予防方法です。次の点に十分注意の上、感染の予防に努めてください。

ア 外出する際は長袖シャツ・長ズボンなどの着用により肌の露出を少なくし、肌の露出した部分には虫除けスプレー等を2～3時間おきに塗布する。人混みはなるべく避ける。

イ 室内においても、電気蚊取り器、蚊取り線香や殺虫剤、蚊帳(かや)等を効果的に使用する。

ウ 規則正しい生活と十分な睡眠、栄養をとることで抵抗力をつける。

突然の高熱や頭痛，関節痛や筋肉痛，発疹等が現れた場合には，デング熱を疑って，直ちに医師の診断を受ける。

エ 蚊の繁殖を防ぐために，タイヤ，バケツ，おもちゃ，ペットの餌皿等を屋外放置しない，植木の水受け等には砂を入れるなどの対策をとる。

3 参考情報

○外務省 世界の医療事情（パキスタン カラチ）

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/medi/asia/karachi.html>

○厚生労働省検疫所（FORTH） 感染症についての情報「デング熱」

<http://www.forth.go.jp/useful/infectious/name/name33.html>

○厚生労働省「デング熱について」

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000131101.html>

○ 厚生労働省「デング熱に関する Q&A」

https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkakukansenshou19/dengue_fever_qa.html

○ 当館ウェブサイト

<http://www.kr.pk.emb-japan.go.jp/>

○ 緊急時の連絡先

在カラチ日本国総領事館 電話（＋92－21）3522－0800